

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)



公表日：令和5年3月31日

事業所名 中津川市発達支援センターつくしんぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		指導室3室は、指導内容によって可動式パーテーションで仕切って使用している。	今後も、利用定員に合わせ指導室の使い方を検討していきます。
	2	職員の配置数は適切である	○		40人定員に対し、児童発達支援管理責任者2名、指導担当職員11名で対応している。	配置基準以上の職員数を確保できている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		バリアフリーに対応した施設です。	指導室内に不要な掲示物を置かない、使わない遊具などを児童の目につくところに置かないなどの配慮を行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		エアコン設置率100%、床暖房完備の施設です。	空気清浄器が全施設配置されてなかったため、令和2年度に全指導室に配置しました。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に職員会を開催し、業務改善の検討も行っています。	行事の在り方や指導方法など、改めて考える機会を持つようにしました。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		全保護者対象に、アンケート調査を実施しました。	職員会で、集計結果について全職員に周知し、業務改善点について検討しました。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		集計結果をホームページで公表します。	結果を踏まえて、職員会等で、改善点について、今後検討を進めます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部評価は、定期的には実施しておりません。	平成30年度は、教育評価委員による「教育評価委員会」で評価をしていただきました。事業周知をしっかりと行い、事業の充実に努めることという評価をいただきました。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		発達支援センター主催による「中津川市発達支援関係職員研修会」を3回実施しました。	新型コロナウイルス感染症拡大防止によりオンライン研修とし、多くの方に参加していただくことができるように呼びかけました。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		児童発達支援管理責任者によるアセスメントを実施しています。	今後も保護者のニーズや課題をとらえた計画策定に努めます。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		臨床心理士による、新版K式発達検査を就園、就学前に実施しています。	今後も新版K式発達検査を行い、保護者や園と結果を共有していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに沿った計画策定を行っています。	地域の園や福祉サービス事業所等との連携による支援を行っています。「地域支援」の観点から、子育てのための支援が関係機関や地域の社会資源の中で展開され、連携されていくように考えていきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画に沿った支援が行われています。	児童発達支援管理責任者による助言、指導により、支援計画に沿った支援を行います。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員集団による検討を行っています。	職員会議等で、個々の課題を出し合い、支援内容を検討し、プログラムを構築します。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		事業所内研修会を企画し、学び合う機会を作っている。	事例検討を行いながら、それぞれの意見を取り入れプログラムを組むようにしています。今後も、研修等に参加し、学んだことを活動プログラムに取り入れていきます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○	個別指導とグループ指導を組み合わせ指導を行っているが、グループ指導内容が計画に盛り込みにくい状況です。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止により実施を控えています。	個別指導を中心に計画策定しているため、今後グループ指導については、感染症対策を徹底し、それぞれの個別指導の内容を精査しながら実施したいと考えています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員間の意思疎通を心掛けています。	朝礼で、活動内容の確認、協力体制の依頼など行い、スムーズに支援ができるよう心掛けています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援が終わった後、できる限り打ち合わせの時間を取ります。	時間配分などを考えながら、その日に気付いたことなどを言い伝えだけでも行い、職員間で共有できるようにします。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の指導記録の記入はその日のうちにを徹底しています。時間がないうちはメモ書き等にして、翌日までに完了します。	指導記録により振り返りと懸案事項など、その都度、児童発達支援管理責任者が聞き取り、課題を見出し検証し、対応しています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		児童発達支援管理責任者が6か月ごとのモニタリングを実施しています。	モニタリングにより、必要に応じて計画の見直しなどを行っています。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加しています。	子どもにとって適切な支援を行えるよう、子どもの状況を把握している児童発達支援管理責任者が会議に参加しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との連携を各種研修会を通じて、密にしています。	「発達支援連絡会」「システム実務担当者会議」に参加し、健康医療課や医療機関、教育関係職員などと連携を図り、発達の気になる子どもに対して、早期発見、早期支援につなげます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との連携を取りながら、適切な支援を行うよう努めています。	必要に応じてケース会議などを開催しながら、連携した支援に努めています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		医療機関等との連携を取りながら、適切な支援を行うよう努めています。	子どもの主治医からの指示内容を踏まえた支援に努めます。嘱託医の助言をもらいながら、適切な支援に努めています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の同意を得たうえで、支援内容等の情報共有を行っています。	就園連絡会に参加し、各幼稚園、保育園への支援内容の引継ぎを行います。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の同意を得たうえで、支援内容等の情報共有を行っています。	支援引継ぎシートを作成し、各学校への支援内容の引継ぎを行います。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他の児童発達支援センターや特別支援教育にかかわる機関との連携を図っています。	今後も岐阜県障害幼児研究会及び東濃地区障害児指導方法研究会に加入し、研修会などに参加していきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		コロナ禍のため実施しておりません。	3歳以上児はすでに通園しているため、園交流は行っていません。未満児の園交流は今後は感染状況を踏まえ検討していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		指導後に保護者と話す時間を取り、共通理解に努めています。	保護者に寄り添い、保護者の立場に立った助言、指導に努めます。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		令和元年度から実施しました。	保護者の都合による実施を望む声が多く、引き続き日程調整をしながら創意工夫し、進めて行きます。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		通所開始時に、書面を渡ししながら説明を行っています。	今後も、わかりやすく丁寧な説明に努めます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインに沿って作成された計画を示しながら、説明を行い、保護者から同意をいただいています。	今後も、丁寧な説明に努めます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		6か月ごとのモニタリングにより相談に応じ、適切な助言等を行っています。	今後とも、丁寧な対応に努めます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		児童発達支援管理責任者が同席し、定期的な役員会や茶話会の実施、学習会の開催など、保護者会の活動を支援しています。	保護者同志がつながることができるような場の設定に努めます。今年度よりZOOM利用ができる環境を整えることができました。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者からの相談には、担当職員や児童発達支援管理責任者が対応を行っている。	随時相談に応じていく。月に1回相談日を設けて対応することを継続していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、おたよりを発行し、行事予定などについて情報発信しています。	掲示の仕方や発信の方法を見直し、わかりやすいよう工夫していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		園や保健センターなどとの情報共有には、保護者の同意をいただき対応しています。	SNSなどへの情報のアップについては、職員及び保護者に注意喚起を行っています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		意思疎通、情報伝達のための配慮を行っています。	落ち着いた環境でゆっくり話ができるよう、環境設定を行っています。子どもには、視覚支援などを行い、意思の疎通を図っています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		今年度は西民協の方に事業内容を理解していただきました。三菱電気ひしのみ会に草刈りボランティアに来ていただきました	つくしんぼの行事に地域の方を招き、交流に努めます。
	非常	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		不審者対応訓練を実施しました。マニュアルを策定している。避難経路図を指導開始時に配布した。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災、水害、地震訓練を実施しております。ハザードマップを掲示しました。	災害発生時の対応方法や、避難経路など、掲示板等に大きく掲示したり、リーフレットを作成し保護者への周知を継続します。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		通所開始時に、子どもの生育歴や健康状況などについて、保護者にアセスメントシートに記入していただき把握しています。	今後も、支援にあたり留意すべき点など、しっかり把握したうえで支援を行います。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食物アレルギーの有無について、アセスメントシートに記入していただき把握しています。	現在、重いアレルギーを持つ子どもがいないため、医師の指示書までは取っていませんが、今後対象となる子どもが通所した場合は、すぐに対応します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例が発生したときは、記録を残し、事業所内で情報共有しています。	職員会などで、事例に基づき、再発防止の対策などを考慮しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		リモートにより、研修を受講しました。虐待防止委員会も設置しました。	職員会等で、虐待についての研修内容を逐次報告し情報共有しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		県が主催する虐待防止・権利擁護研修に管理者が参加しました。各々の職員もリモートで研修に参加しました。	切迫性、非体替性、一時性のある場合は身体拘束を行う場合がある事を個別支援計画に記載します。研修会を継続して受けていきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。